低学年児童期の学習

～保護者のみなさまへ～

第1回　低学年児童期の読み書き学習の重要性

このページをお読みになっているかたの多くは、低学年児童の保護者であろうと思います。みなさんは、小学校の低学年という時期の学習について、どんな考えをもっておられますか？小学校入学後間もない１年生のお子さんは、何につけ頼りなく幼さを感じさせるものですが、卒業を控えた６年生の終わりごろには外見的にも内面的にも著しく変わっているものです。

弊社は中学受験専門塾ですから、学力面の変化や成長を例にあげて考えてみましょう。子どもは小学校入学とともに正式に文字や数字を学び始めます。リテラシーの獲得に向けた第一歩を踏み出した子どもたちが、わずか６年後には中学受験をするレベルにまで到達していきます。ほんとうに驚くべき成長です。

≪語彙量の変化≫　　（坂本一郎）

年齢(歳)	語彙量	年間増加量	増加率
6	5,661	1,039	18.4%
7	6,700	1,271	19.0
8	7,971	2,330	28.9
9	10,276	3,602	35.1
10	13,878	5,448	39.3
11	19,326	6,342	32.8
12	25,668	5,572	21.7
13	31,240	4,989	16.0
14	36,229	4,233	11.7
15	40,462	3,457	8.5

たとえば、子どもの語彙数で成長の様子を見てみましょう。小学校入学時の子どもの総語彙数の変化をたどってみると、語彙増加率が最も高いのは10歳のときで、増加数が最も多いのは11歳のときです。この現象は「語彙の爆発」と呼ばれていますが、それほど急激に言葉を増やしていくのが小学校の高学年期なんですね。

語彙の爆発現象が一段落した後、中学生になって以後の子どもの語彙変化は緩やかになり、20歳前後になると語彙の増加はすっかり止まったかのようになります。

ところで、語彙の爆発的な増加を可能にするのは何でしょうか。それは、小学校入学時からの継続的な文字学習、読み書きの習練の賜物に他なりません。文字の一つひとつを見てその読みを声に出して発音し、字形と読みの照合をくり返しながら文字を覚え、さらに文字と文字の組み合わせによってひとまとまりの意味をもつ言葉になることを学んでいきます。

こうして、短い文を読んでその意味を理解できるようになり、さらに徐々に長い文が読めるようになり、やがて本を読んで楽しむことができる段階へと成長していくわけです。それは絶え間ない継続的な学習あってこその成果であり、このまどろっこしいプロセスを歩むのが小学校の低学年期です。上表を見てもわかりますが、低学年期の語彙の増加ペースは緩やかであり、高学年時のような圧倒的な増加現象は見られません。

以上のような語彙獲得の流れから何がわかるでしょうか。高学年期の語彙爆発は、低学年期の地道な文字学習、読み書き学習によってもたらされているという事実です。上表は平均値を示すもので、子ども個々の現状には相当な開きがあります。それだけに、低学年期の学習の質や継続性は、後々の子どもの学力の発展に大きな影響を及ぼすことになります。読み書きの基盤がしっかりとした子どもは、同じ文章を読んでもその意味を正確に理解できますし、読みのスピード自体も速いものです。だいいち、読みの精度やスピードのレベルが高いほど本を読んで得る語彙が多く、学習の効率も圧倒的によいのです。いっぽう、低学年期の読み書き学習をないがしろにした子どもは、同じことを学んでも理解に手間取り、学習そのものに時間がかかってしまいます。

リテラシー（読み書き）の基盤形成は、やがて訪れる高度な学習領域に達するための前提となるもので、丁寧に継続して取り組めば誰でも高い学力へと到達する可能性を築いてくれます。楽しく学ぶ工夫をしながら継続していけばよいのです。読み書きの教育は、徒な英才教育とは全く次元の異なる、人間の成長にとって血となり肉となる大切なものなんですね。低学年期の読み書き学習を大切に！